

河川生かしたまちづくり

江戸川区、ソウルで報告

埋め立てより再生を

親水公園の整備など河川を生かした江戸川区のまちづくりについて、区の担当者が今月、韓国・ソウル市で開かれた「ソウル・メトロポリタン・

フォーラム」で報告した。同区では一九七〇年から、区内に多い水路や中小河川を生かした環境づくりに力を入れてきた。

都市化で水路が埋め立てられるケースが目立つ中、同区は都市河川として再生する方針を決め、七三年には国内初の「古川親水公園」を整備。こ

れまでに五つの親水公園と十八の親水緑道がほぼ完成した。維持管理は、住民らがボランティアで支える。

一方、ソウル市では、これまで五つの親水公園と十八の親水緑道がほぼ完成した。維持管理は、住民らがボランティアで支える。

一昨年市内を流れる清溪川が復元されるなど、河川を生かした都市づくりが注目されている。同市の再開発のあり方などを考える同フォーラムは、各都市の先進事例を学ぼうと同市立大が主催。江戸川区のほか、ドイツ・ベルリン市やシンガポール市などが報告し、ソウル市の副市長らも出席した。

参加した区環境促進事業団の長谷川和男事務局長は「江戸川の事例は、身近な環境づくりの取り組みとして参考にしてもいいのではないか。区を取り組むをまとめる機会にもなった」と話している。(小林由比)